

2025年1月1日
85号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029(354)5111
発行人 渡辺明宏
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

新年のご挨拶

院長 吉井 慎一



新年明けましておめでとうございます。昨年11月、12月は、暖かい日が続きましたが、寒暖の差が激しいため、体調を壊された方も多かったと思われます。皆様方におかれましては清々しい新年を迎えられたでしょうか。

以前より茨城県の取り組みとして広報がありましたが、昨年12月より限られた救急資源を有効に使用する目的で、200床以上の病院での選定療養費の徴収が始まっています。あくまで、明らかに軽症での救急車利用や、不適切な利用を減らす目的であり、必要時に救急要請を躊躇うことはあってはならないと考えています。当院としては、必要な救急医療の提供は今まで通り可能な限り行っていきます。

他の産業でも同様ですが、医療の世界でも少子高齢化の急速な進行は、昨年以上に大きな影響を及ぼしています。2040年頃に日本の高齢者（65歳以上）人口の割合の最大化と、生産年齢人口の急減が同時進行で起こり、国内経済・社会維持が危機的状況に陥るとされる問題です。ここ数年、救急搬送患者の半数以上が高齢者の①感染症（肺炎、尿路感染症等）、②脳梗塞、③心不全、④骨折となっています。高血圧、糖尿病といった複数の疾

患を抱えており、もともと状態の悪かった患者さんが多く含まれます。単なる国の急性期病床削減だけでは、高齢者を中心にしばらく病床が足りなくなる現象が生じる恐れがあります。病床数の多い基幹病院だけでなく、地域の医療機関の協力、訪問在宅医療の推進、介護施設との連携構築が待ったなしの状況にあります。また、生産年齢人口の減少は、特に地方で医療に従事する人口の減少に直結します。医師不足だけでは現在もタスクシフトなどを行っていますが、そもそも医療に関連する人員を確保できなくなることが問題です。医療はITを活用した業務の効率化では解決しない業務が多い職種です。もちろん各医療機関の努力・連携は必須ですが、より重要なのは、国の医療行政（どのような医療をめざしていくのか、また国民一人一人が医療について考えていくことだと思います。）昨年と同じ内容になっていますが、問題はより深刻になっており、改めて皆様とともに考えていきたいと思っています。

当院だけで「地域を護る」ことは不可能で、地域の医療機関との連携を今以上に進めていくことは必須です。当院の救急で診察した患者さんでも、重症度や状況に応じて近隣の医療機関に入院していただいたり、当院での急性期治療が終了した患者さんを他院に転院していただくことが今後増えていきます。地域の皆様のご理解、ご協力を今まで以上によりしく願います。

最後になりますが、この一年間の皆様方、ご家族のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

1月	2月	3月	4月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
① ② ③ ④	①	①	①
⑤ 6 7 8 9 10 ⑪	② 3 4 5 6 7 ⑧	② 3 4 5 6 7 ⑧	② 3 4 5 6 7 ⑧
⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱	⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮	⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱
⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕	⑯ ⑰ ⑱ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕	⑯ ⑰ ⑱ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕	⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕
㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜	㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜	㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜	㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



泌尿器科

泌尿器科で扱う疾患としては泌尿器がん、尿路結石症、尿路感染症、尿路発生異常、尿路の外傷、排尿機能障害（前立腺肥大症、神経因性膀胱）などがあります。

このたび当院では前立腺肥大症に対する低侵襲手術（WAVE治療）を導入しました。薬物治療や行動療法を続けていても排尿状態が改善しない症例に対しては手術療法を考慮することになります。これまでは比較的侵襲の大きい経尿道的前立腺切除術を中心に手術してまいりましたが、全身状態のあまり芳しくない症例に対しても比較的安全に施行できる最新の手術療法です。効果発現までに時間がかかるのが短所となりますが、いままで手術を躊躇されてきた患者さんにも適応が広がる可能性があります。

もうひとつ、経尿道的前立腺切除術では適応外となってしまうような、とても大きな前立腺肥大症に対しても、手術施行可能な経尿道的のホロミウムレーザー前立腺核出術のための高出力レーザー装置も導入しました。経尿道的に前立腺腺腫を核出し、膀胱内で細断して取り出すことで大きな前立腺肥大症も比較的安全に、かつ根治的に摘出することができます。

同じレーザー装置を用いることで腎結石、尿管結石、膀胱結石も今までよりも効率的に碎石して抽出することが可能となりました。

前立腺肥大症に対する低侵襲術で使用する装置



©20XX Boston Scientific Corporation. All rights reserved.

結石破碎術で使用するレーザー手術装置



泌尿器科医師と6階東病棟スタッフ



6階東病棟カンファレンスの様子

地域の皆様に、より安全で常に最近の治療法を提供できるようにこれからも日々鋭意努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

薬 務 局

当薬務局は、薬剤師23名、事務員2名で構成されています。業務は、調剤、医薬品を供給する薬品管理、医薬品情報、製剤、抗がん剤のミキシング、検査前・入院前の中止薬確認、外来化学療法室、病棟業務、治験管理業務などがあります。

また、がん診療推進委員会、緩和ケア部会、感染対策委員会、栄養・褥瘡委員会、医療安全管理委員会などの各委員会で活動しており、多くのチーム医療にも参画しています。

毎朝、各自の業務ローテーションを確認し、全局員で患者さんのために安全で適切な医療の提供、医薬品の適正使用を目標とし日々の業務に努めています。



薬務局スタッフ

地域の先生紹介

恵愛小林クリニック

当院は、那珂湊地区において19床を有する有床診療所として、地域医療に取り組んでおります。常勤医による診療科目は循環器内科、消化器外科、整形外科を中心に、非常勤医による神経内科、皮膚科、泌尿器科など幅広く対応しております。

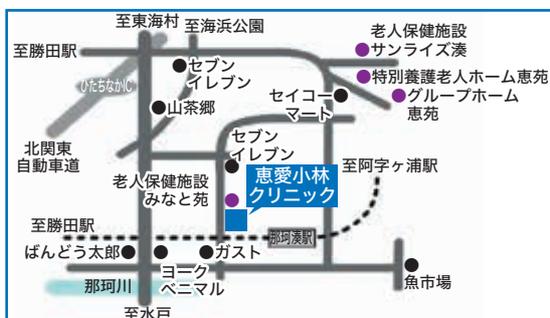
また、当法人では老健施設、グループホーム、特養の運営も行い、急性期から慢性期、介護まで一貫した地域包括ケアを基本理念としております。生まれ育った土地で安心して老後を過ごしていただけるよう、日々努めております。

可能な限り当院で診断と治療を完結する方針を掲げておりますが、対応が難しい症例、特に夜間緊急時の迅速かつ柔軟なご対応には、スタッフ一同深く感謝しております。本来であれば、夜間も当院での対応が理想ではありますが、現実には人員の制約があり、課題として捉えております。

当院は、ひたちなか総合病院の支援をいただく立場にあるだけでなく、後方支援医療機関・施設としての役割を果たし、地域の医療体制に貢献したいと考えております。今後も救急要請への対応を含め、地域医療に一層尽力してまいります。



小林 学院長



医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携室へ

8:15~16:30 (月曜日~金曜日)

TEL 029-354-5202 (直通)

FAX 029-354-5220 (直通)

駐車場リニューアルのお知らせ

2025年1月下旬頃より

工事期間：2025年1月中旬～を予定
工事中も駐車場利用できます

当院駐車場（東/西駐車場）が

車両ナンバー認識駐車場 に変わります

車両ナンバー4桁 が必要となります



❗ 駐車券レスになります

❗ 車両ナンバーで精算します

❗ 誘導員が廃止になります

駐車場利用方法



入口で車両ナンバーを認識しています
(駐車時は機械の操作不要です)

・正面玄関横
・駐車場出入口付近の精算機で事前精算



精算機のタッチパネルに従って
割引処理と精算をしてください

出口に精算機ございません



精算後、出庫してください

駐車料金

外来患者さん (※要割引認証 詳細は下部をご確認ください) 一般の方 (お見舞い含む)	(共通事項) 入場後 30分まで無料	患者さんは従来と変更ありません 8時間まで100円、以降1時間100円
		1時間まで300円、以降1時間300円 ※緑文字部分、従来料金からの変更

リニューアルに伴う工事期間中（1月中旬頃～）も駐車場利用は可能です。
工事中はご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、何卒ご理解・ご協力のほど、お願い申し上げます。

お正月明けの腸の不調はありませんか？～腸活習慣のススメ～

栄養室 中山真由美

クリスマス、忘年会、お正月、新年会など、年末年始はイベントが続き、腸に負担をかけがちです。腸にダメージを受けると、腸内細菌が減って免疫力が低下し、さまざまな体調不良の原因にもなります。

＜腸活とは＞

腸内環境をより良い状態にするために、食生活や運動などの生活習慣を見直して生活リズムを整えることです。腸には善玉菌（有用菌）と悪玉菌（有害菌）が存在し、腸内の悪玉菌を減らし善玉菌を増やすことで腸内環境のバランスが整い、便通の改善、免疫ケア、肌荒れの緩和などが期待できます。

＜腸活の方法＞

■食物繊維やオリゴ糖が豊富な食材を摂る

食物繊維やオリゴ糖は消化・吸収されずに大腸まで届き、善玉菌のエサとなって善玉菌を増やす作用があります。これらの成分は「プレバイオティクス」と呼ばれています。食物繊維が豊富な食材：野菜、芋類、豆類、海藻類、果物などオリゴ糖を多く含む主な食材：大豆、たまねぎ、ごぼう、にんにく、アスパラガス、バナナなど

*摂り過ぎると下痢やお腹の張りを引き起こす可能性もあるため、注意しながら摂取しましょう。

■発酵食品を摂る

発酵食品には健康に有用な生きた善玉菌が多く含まれており、腸内環境を整えてくれる作用があります。これらは「**プロバイオティクス**」と呼ばれています。

主な発酵食品：ヨーグルト、乳酸菌飲料、納豆、漬物など
*かかりつけ医などで食事制限の指示がある場合は、そちらの指示に沿い、摂り過ぎないようにしましょう。

プレバイオティクス（食物繊維・オリゴ糖）とプロバイオティクス（発酵食品）を一緒に摂取する方法は「**シンバイオティクス**」と呼ばれています。二つを組み合わせることにより、双方がより効果的に健康に有利に働くこととされています。腸活習慣で、体の中から疲労回復を心がけましょう！

◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆

診療科	氏名	異動日
総合内科	李 礼 真	退職 (2024. 12. 31)
	米 村 拓	採用 (2025. 1. 1)
小 児 科	児 玉 應 浩	退職 (2024. 12. 31)
消化器内科	高 須 美 香	退職 (2024. 12. 31)
臨床研修医	平 塚 瑞 歩	採用 (2024. 11. 1)